

環境政策技術マネジメントコース

Graduate Course in **Strategic Environmental Management and Sustainable Technology Solutions**

教授 石田 秀輝
Professor
Emile.H.Ishida



SEMSaT (Graduate Course in Strategic Environmental Management and Sustainable Technology Solutions) is a course for Master's Degree and Doctoral Degree that started in October, 2005 aims at fostering generalists who can manage the environmental strategies and policymaking at private sectors and administrations. (Adopted as five years project by the JST in 2005) In six years, 40 master course students and 5 doctoral course students have completed their studies.

The graduate is taking an active part in various areas of the enterprise, NGO and the administrative body. This course got A evaluation in the JST final evaluation, to advance the improvement of the program afterwards, and to achieve the end goal. It is decided to continue this course based on the necessity of environmental talent though this course is a program of five-year plan, and it ends once in March, 2010 and starts newly from April 2010. It aims at training the practical type environmental management talent immediately chiefly continuously for the member of society, and to contribute to the development of the sustainable society. It wants to train the practical type environmental management talent immediately chiefly continuously for the member of society, and to contribute aiming at the achievement of the sustainable society.

概要

本コースは、環境政策・施策の立案並びに戦略構築を行うスキルを持ち、鳥瞰的な視野で指導的な役割を果たす即実践型環境マネジメント人材の養成を目的とした、修士課程のコースである。科学技術振興調整費新興分野人材養成プログラムとして、平成17年10月開講、平成22年3月に終了し、JST最終評価で、A評価を頂き、最終目標を達成できた。5年間で修士課程44名、博士課程5名が修了している。修了生は、企業や行政機関、NGO等の様々な領域で活躍している。平成22年4月からは環境人材育成の必要性を踏まえ、文部科学省の特別教育研究経費の支援により、環境科学研究科において本人材養成を継続して行っている。



Course Guidance

今年の入学生

本コースでは、平成23年に7期生として社会人学生、6名の入学があった。6期生と合わせて11名の在校生がいる。今後も引き続き、主に社会人ならびに学生を対象とした即実践型環境マネジメント人材の養成を行い、環境学の構築、持続可能な社会の実現に向けて貢献したい。

カリキュラムの自己評価と改善

環境省の環境人材育成のための大学教育プログラム開発の一環として、平成23年度は環境人材評価手法開発を行った。具体的には、本コースでの2年間の学習が、その後職場に戻ってから、どの程度効果を挙げているかの測定並びに卒業生と修了生の意見、情報交換等を主目的に、修了生が30分程度の発表をし、SEMSaT教授陣や他の修了生が質疑応答を行う「交流会」を5回に渉り東京で開催し、約30名がこれに参加した。交流会も含めた追跡調査の結果としては、

1. 平成21年実施のJST事後評価時点と比較して、2年経過後の現在では、さらにSEMSaTにおける教育の波及効果が広がっていること、
 2. 環境PO5名の波及効果の方が、他の調査対象者の波及効果よりも拡がりがあったこと、などがわかった。
- 調査は欧米を含めた大学や専門機関をベンチマークしながら行ったが、このような調査手法は十分には開発されておらず、独自に手法開発を行った結果である。今後も追跡評価調査は継続して行い、カリキュラムの進化につなげたい。ちなみに今年度はカリキュラムとして、PSS教材、サステナブル経済政策論を開発し、運用中のソリューション創出論、自然技術イノベーション論等の検証を行った。



Knowledge Share Meeting



准教授
古川 柳蔵
Associate Professor
Ryuzo Furukawa

特任教授
多田 博之
Specially Appointed Professor
Hiroyuki Tada

助手
枝村 一磨
Assistant
Kazuma Edamura

広報・情報収集活動

平成23年3月および12月に開催された平成23年度「第1回環境人材育成に向けた大学全体会合」では、文科省、環境省の環境リーダー育成プログラム参加校とリーダー育成にかかわる問題点や考え方の意見交換を行い、運用に関わる有用な知見を得ることが出来た。

12月には本コースのHP (www.semsat.jp)を大幅に改築し、学生や教員の顔が、より鮮明に見えるようにした。また体験授業などを設けて、より具体的に授業内容が見えるようにした。

e-learningに関しては、今後も継続、進化させていく重要性に鑑み、新機材を導入し、ビデオ録画の効率性を飛躍的に改善させることができた。

また継続プログラムとして、第10回SEMSaTセミナーとして、求道会館に株式会社dff社長の清水久敬氏を迎え、ソーシャルマーケティングの可能性を議論した。さらに第11回SEMSaTセミナーとして、地元学の結城登美雄氏を迎え、地域で支え合う農・漁と食について対談を行った。

その他パンフレットのリニューアル、SEMSaTショートコースの開催、入試説明会への参加等、よりいっそう広報・情報収集活動に力を入れた。



Revised Home Page



SEMSaT Short Course

社会貢献

NPO 法人サステナブル・ソリューションズ〜小さな渦を育てる

社〜が設立されて、3年目を迎え、日本型の生活文化を残しながらも急速な環境劣化を迎えつつある沖永良部島で「今残しておきたいこと」をテーマに8月2日から4日まで第3回沖永良部島シンポジウムを主催した。

来場者は108名を数え、心豊かなライフスタイルについて再考しつつ、将来世代に我々が何を残していくべきかについて意見交換を行った。



SEMSaT Seminar

Activities in 2011

- 10th SEMSaT Seminar, Kyudo Kaikan, February 7th, 2011
- 11th SEMSaT Seminar, Kyudo Kaikan, July 14th, 2011
- Okinoerabu Symposium, Floral Hotel, Aug2rd -4th, 2011
- 5th SEMSaT Short course, July 13th, Tohoku Univ Tokyo office, 2011
- 6th SEMSaT Short course, Nov. 17th, Tohoku Univ Tokyo office, 2011



Okinoerabu symposium 2011